

はりきゅう実技評価委員会 評価マニュアル

< 2016. 4. 1改訂 >

採点方法

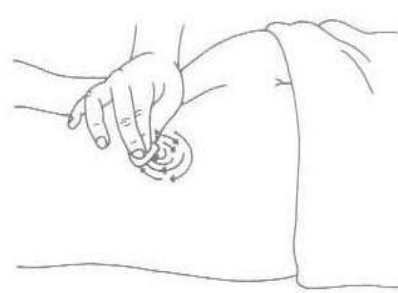
- ・本評価は加点法にて行われる。(但し、見だしなみ・態度、鉾の準備の項目は減点法とする。)
- ・各項目において、不良が1つあるごとに判定基準を1ランクずつ下げる。
- ・同じ評価内容に複数回の不良がみられても、チェックボックス1つにつき、1回の減点とする。
- ・不良が3つ以上の項目は0点とする。(但し、危険行為があった場合など不良が1つでも、評価点数が即0点・総合評価が不可となる項目もある。)


採点にあたっての注意事項



- ※評価点数に0点がついた場合、評価者は評価表の備考欄に判定の理由を必ず書き入れる。
- ※試験中止に該当した項目があった場合、中止の判断は試験校に委ね、試験後に評価委員から中止事由があった旨、試験実施校に伝える。
- ※試験校の判断で試験中止となった場合、中止となった項目以降について評価委員による判定も中止となる。
- ※本マニュアルと内容が違い、判定が困難な場合は、評価できない項目としてチーフが判断することがある。
- ※灸の課題は、1壮のみでは判定できない項目が多いため、原則として複数壮とする。

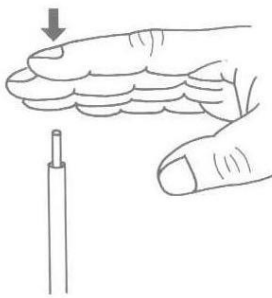
《鍼》

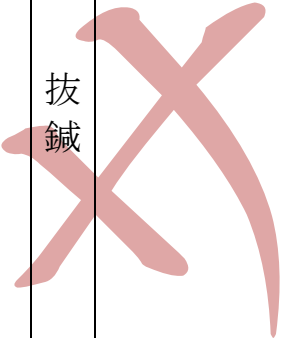
	評価項目	判定のポイント
身 だ し な み	1. 服装（白衣）	・学校所定の服装（白衣）で、清潔なものを着用している。
	2. 頭髪	・施術者に相応しい髪型・髪色をしている。
	3. 爪	・爪は短く、汚れがないようにし、マニキュアは避ける。
	4. 身体	・身体は清潔にして不快感を与えないように配慮し、香水は避ける。
	5. 装飾 など	・衛生上、手指のアクセサリは原則としてはずし、華美な装飾は避ける。
態 度	1. 言葉遣い	・モデル及び試験官に対し、失礼がないよう、常に丁寧な言葉遣いで接する。
	2. 相手への気遣い	・モデルへの気遣い（苦痛の考慮など）を適切に行う。 ・誠実な態度を保つことができる。
	3. 施術の旨を相手に伝える など	・モデルにどのような施術をするのか、適切に伝える。
準 備	1. 手指消毒 刺鍼前後の消毒	・施術を行うにあたり、スワブ法またはラビング法にて、手掌・手背・指先を消毒する。
	施術中の衛生管理 など	・施術中に手指が不潔となった場合に、再度消毒している。
	2. 器具などの衛生操作 ・パッド（盤台・ワゴンなど）の消毒	・器具の清潔、不潔を区別し、適切な衛生操作が行えている。

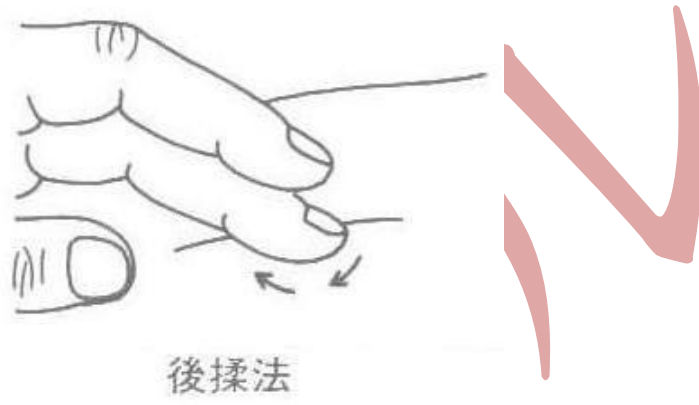
	評価項目	判定のポイント
	・滅菌パックの開封	・滅菌パックの開封やシャーレの取り出しが衛生的に行われている。
	・滅菌・消毒された施術道具を適切に使用・処理したなど	・施術器具を衛生的に取り扱い、施術中に不潔となった場合には再度消毒する等、適切に処理を行った。
消毒	1. 消毒の流れ 綿花を取り出す際の手指消毒	・消毒された清潔な手指で綿花を取り出す。
	綿花入れの蓋の開け閉め	・綿花入れの蓋が不潔であることを理解し、触れた場合は、再度手指消毒を行う。
	アルコール量の調節	・余分なアルコールは廃綿容器の中で絞る。(清潔な綿花入れの中では絞らない。)
	2. 施術前の消毒方法	・遠心性に渦状、あるいは一方向に行い、拭き戻しや二度拭きはしない。 ・綿花は消毒のたびに新たなものと交換して使用する。
	範囲	・施術部位への消毒は、施術者の押手の触れる部分全てに行う。  施術部位の消毒
	※消毒の総合評価	・前消毒がなかった場合→消毒の総合評価は不可なり、消毒項目の評価は即0点となる。

	評価項目	判定のポイント
前揉法	前揉法 圧	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刺鍼部位に押し手の指腹（示指、中指、母指のいずれか）で適当な圧を加える。
	回数、時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回す回数は、通常3～5回程度にする。
	丁寧さ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 皮膚面を滑動させるのではなく、緩やかな圧を深部に浸透させながら、ゆっくり柔らかく回すように行う。 ・ 刺鍼部位を刺激に慣らす観点から、丁寧に円を描くように行う。  <p>前揉法(前揉燃法)の揉み方</p>

	評価項目	判定のポイント
押手	1. 押手圧 安定・不安定	・安定した適切な形と圧を保ち、動揺させない。
	垂直圧	・押手の母指と示指で刺鍼部位の皮膚面を軽く加圧する。
	水平圧	・押手の母指と示指で鍼体を保持する。(水平圧が強すぎると刺入しにくく、弱すぎると鍼体がふらつき、刺入に差し支えるので、適当な圧を加える。)
	周囲圧	・中指、環指、小指や母指球、小指球など鍼体を保持する以外の部位を使い刺鍼部位を固定し、刺鍼を安定させる。
	2. 形 満月	・満月の押手→押手の母指と示指を軽く合わせて正しい円の形をつくる。  満月の押手
	半月	・半月の押手→押手の母指と示指を軽く合わせて半円形の形をつくる。  半月の押手
	中指から小指の3指の形 など	・満月または半月に即した形が保持できているか。

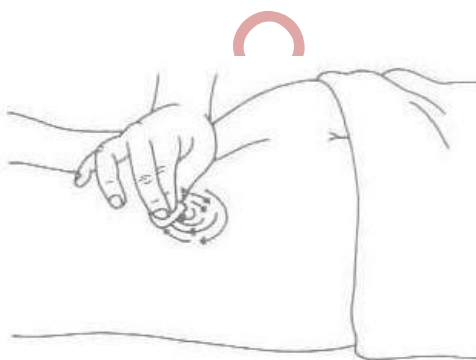

	評価項目	判定のポイント
切皮	1. 回数	・ 示指（指腹または遠位指節関節）で、原則として数回（2回～3回）の弾入で行う。
	2. 切皮方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鍼管まで強く叩いていないか。 ・ 鍼柄の上部を垂直に叩いているか。 ・ 手首を柔軟にリズムカルに叩いているか。 ・ 叩く力は鍼の太さ・鍼尖の形状・材質・部位により加減しているか。  <p style="text-align: center;">切皮の要領</p>
刺入	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 刺入の1～5項目について </div> <ul style="list-style-type: none"> ※課題経穴が2穴の場合は1本ずつ判定する。 ※課題項目が1穴のときは評価表の□、2穴のときは2穴目を□にチェックを入れる。 ※配点は刺入項目全体で40点とする。 （課題経穴1穴のとき→40点、 2穴のとき→1穴20点×2本=40点） ※評価点数欄には、課題経穴2穴のときは合計点数を記入する。） 	
	1. 刺入方向	・ 指定された方向に刺入できており、角度は適切か。（直刺・斜刺・水平刺）
	2. 刺入深度	・ 刺入深度は適切か。（解剖学的構造から、危険と考えられる部位については適宜調整できたか。）

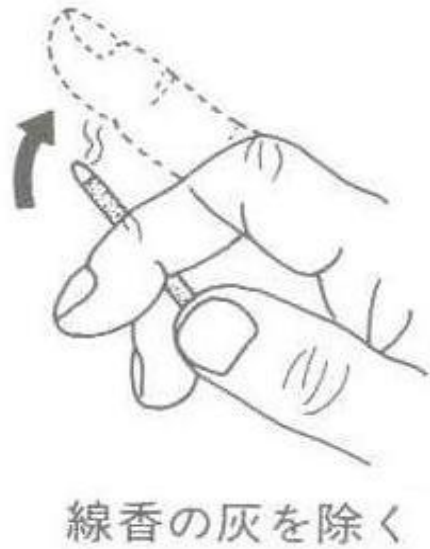
	評価項目	判定のポイント
	3. 刺入方法	<ul style="list-style-type: none"> ・指定された刺入方法で正しく刺入できる。 ・刺手の母指と示指で鍼柄または鍼柄と鍼体の接合部を持ち、鍼を送り込むように、刺入圧を加えていく。
	①送り込み刺法	※2寸以上の鍼を使用する場合は、鍼体部分を持ち刺入しても良い。
	②旋撚刺法	<ul style="list-style-type: none"> ・鍼を刺入時、刺手の母指と示指で鍼柄を左右に1/2～1/3の範囲で回転させながら刺入する。
	4. 刺入圧が適切か	<ul style="list-style-type: none"> ・鍼が曲がらず、スムーズに刺入できる。
	5. 一回の操作で刺入できたか	<ul style="list-style-type: none"> ・1回の操作で刺入できる。
	※刺入の総合評価	※危険な刺入があった場合→刺入の総合評価は不可となり、刺入の項目の点数は即0点となる。
抜鍼 	1. 抜鍼は適切か	<ul style="list-style-type: none"> ・そのまま引き上げ、または施撚しながら鍼を抜き上げる。 ・引き抜くスピードは適切か。(徐々に静かに抜き去る方法が一般的であるが、手技によっては瞬時に抜き去ることもある。) ・滑らかに抜いているか、丁寧に抜いているか。 <div data-bbox="687 1395 1289 1800" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="943 1809 1066 1839">抜鍼の手順</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決して無理な力で抜き上げないこと。
	2. 鍼曲がりの有無	<ul style="list-style-type: none"> ・刺入されている鍼の方向を考慮し、その方向に沿って、抜鍼する。


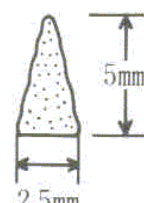
	評価項目	判定のポイント
後揉法	後揉法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抜鍼後に押手の示指、中指、もしくは母指を用いて、刺鍼部位を揉む。 ・ 方法については、前揉法と同様に行う。 
後消毒	施術後の消毒	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠心性に渦状、あるいは一方向に行う。 ・ 綿花は消毒のたびに新たなものと交換して使用する。
総合	1. 術者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・ モデルの様子が観察できるよう、視野を広く保ち、極端な前かがみにならず、施術しているか。
	2. 患者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・ モデルの苦痛を考慮し、配慮しているか。
	3. 立ち位置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無理な位置で施術を行っていないか。
	4. 動きの合理性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間内に滞りなく、スムーズに行えているか。

《灸》

	評価項目	判定のポイント
身 だ し な み	1. 服装（白衣）	・学校所定の服装（白衣）で、清潔なものを着用している。
	2. 頭髪	・施術者に相応しい髪型・髪色をしている。
	3. 爪	・爪は短く、汚れがないようにし、マニキュアは避ける。
	4. 身体	・身体は清潔にして不快感を与えないように配慮し、香水は避ける。
	5. 装飾 など	・衛生上、手指のアクセサリは原則としてはずし、華美な装飾は避ける。
態 度	1. 言葉遣い	・モデル及び試験官に対し、失礼がないよう、常に丁寧な言葉遣いで接する。
	2. 相手への気遣い	・モデルへの気遣い（苦痛の考慮など）を適切に行う。 ・誠実な態度を保つことができる。
	3. 施術の旨を相手に伝える など	・モデルにどのような施術をするのか、適切に伝える。
準 備	1. 手指消毒 施灸前後の消毒	・施術を行うにあたり、スワブ法またはラビング法にて、手掌・手背・指先を消毒する。 ・施術中に手指が不潔となった場合に、再度消毒している。
	施術中の衛生管理 など	・施術中に手指が不潔となった場合に、再度消毒している。
	2. 準備動作 艾の準備	・適切量（小指頭大程度）の艾を左手手掌にとり、右手の小指球を左手掌に添え、軽く艾を転がしながら紡錘形に形を整える。
	線香への着火	・危険防止のため、ベッドから離れたところで、素早く線香に着火する。
	灰皿の準備 など	・施術前に、ワゴン（ベッドサイド）に灰皿を用意しておく。

	評価項目	判定のポイント
消毒	1. 消毒の流れ ・綿花を取り出す際の手指消毒 ・綿花入れの蓋の開け閉め	・綿花入れの蓋が未消毒であることを理解し、触れた場合は、再度手指消毒を行う。
	・アルコール量の調節	・余分なアルコールは廃綿容器の中で絞る。(清潔な綿花入れの中では絞らない。)
	2. 施術前の消毒方法	・遠心性に渦状、あるいは一方向に行う。  施術部位の消毒
	範囲	・施術部位を中心に軽く消毒する。
艾炷置き	1. 艾炷を垂直に置けているか	・艾炷を倒さず、垂直に置けているか。  灸点に艾炷を置く
	2. 同一点に正確に置けているか	・一点に連続施灸する場合は、同一点に正確に置けているか。

	評価項目	判定のポイント
着 火	1. 不安定な着火になっていないか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支点をつくり、安定した着火を行う。 ・ 線香を適切に持つことができる。 ・ 艾炷をつぶさずに着火できる。 ・ 艾炷の先端付近に着火できる。(側面点火はないか) ・ 線香を患者の皮膚に接触させずに着火できる。
	2. 着火に時間がかかっていないか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 素早く確実に着火を行う。
	3. 着火時に灰を落としていないか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 灰除法を用い、着火前に適切に灰を落とす。  <p>線香の灰を除く</p>
		<p>※前年度あったちようちん、途中消えは有効壮数に入らないため、今年度からは有効壮数の項目で減点し、着火の項目から削除</p>
	※着火の総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険な着火（線香の燃焼部分がモデルの皮膚につく、衣類やシーツを焦がすなど）があった場合→着火の総合評価は不可となり、着火の項目の点数は即0点となる。

	評価項目	判定のポイント
艾捻り・その他	1. 捻りは硬すぎないか	<ul style="list-style-type: none"> 適度な硬さの艾炷を捻ることができる。 燃烧時間が長すぎないか。
	2. 灸熱の緩和は適切か	<ul style="list-style-type: none"> 母指・示指、示指・中指などで適切に熱を緩和させているか。  <p>熱覚の軽減</p>
艾炷作り・壮数	1. 艾の大きさ	<ul style="list-style-type: none"> 艾の大きさは適切か。(米粒大・半米粒大)  <p>米粒大 艾炷の大きさ</p> <p>※実技評価委員会が推奨する半米粒大の大きさ 直径 2 mm、高さ 3 mm～4 mm</p>

	評価項目	判定のポイント
艾 炷 作 り ・ 壮 数	2. 有効壮数	<ul style="list-style-type: none"> ・(透熱灸、八分灸など) 課題通り燃やしたものを有効壮数とする。 ・課題壮数に対し、燃焼壮数が同じ場合20点、9～8割は16点、7～6割は12点、6割未満は0点とする。 ※艾作り・壮数がともに0点の場合、艾炷作りおよび壮数の項目の総合評価は不可となる。 ※課題壮数が10壮以上の場合は、10壮までの評価とする。
	3. 艾炷の形状	<ul style="list-style-type: none"> ・円錐形に艾炷を作ることができる。 ・棒状・先細り・団子状・底面が整っていない場合は減点対象となる。 ・艾炷の大きさと艾炷の形状で不良がなければ10点、不良合計が有効壮数の2割未満は8点、4割未満は6点、4割以上は0点とする。 ※課題通りに燃やしたものののみ、大きさ・形の採点対象となる。(燃焼壮数として数えられるものを採点する。) ※大きさ・形が両方不良でも、不良1壮とカウントする。
後 消 毒	施灸後の消毒	<ul style="list-style-type: none"> ・施灸後の皮膚消毒は、軽めに行う。
後 処 理	1. 後処理は適切か 線香の消火	<ul style="list-style-type: none"> ・患者から離れた位置で、綿花で線香先端を挟み、消火する。
	道具処理	
	人体施灸時は灰の処 理 など	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔な綿花を用い、灰をつまむように取り除く。

	評価項目	判定のポイント
総合	1. 術者の姿勢	・モデルの様子が観察できるよう、視野を広く保ち、極端な前かがみにならず、施術しているか。
	2. 患者の姿勢	・モデルの苦痛を考慮し、配慮しているか。
	3. 立ち位置	・無理な位置で施術を行ってないか。
	4. 動きの合理性	・時間内に滞りなく、スムーズに行えているか。

